

25日開幕の陸上の世界選手権大阪大会(読売新聞社など協賛)に、雇用保険の失業給付を受けながら競技を続けるランナーが出場する。初日の女子三千メートル障害物予選に登場する辰巳悦加選手29。恩師の上野敬裕さん34が実業団の陸上部監督を解任されたことから、自身も退社して「二人三脚」で練習を続け、代表切符をつかんだ。「競技を続けるためにも結果を出す」と、大会にかける師弟の思いは熱い。

女子3000メートル障害物 辰巳選手

と監督と 二人三脚

と監督と 二人三脚

後追い退職 失業給付受け練習

辰巳選手は島根大在学中、2003年の日本インカレの八百以て予選落ちするなど自立った記録は残せなかった。しかし、インカレで辰巳選手の走りを見た上野さんは、腰の位置が高くつま先でトラックを強くはじくフォームに「磨けば光る」と将来性を感じた。04年、卒業後は競技をやめるつもりだった辰巳選手を誘い、自らが陸上部の監督を務めていた東京都内の企業に就職させた。

ところが、今年3月、上野さんは「成績不振」を理



大会への思いを語り合う辰巳選手(右)と上野さん。師弟のぎずなを支えに決勝進出を目指す(東京都練馬区で)

由に監督を解任され、辰巳選手も「私の可能性に付けてくれた上野さんのもとでしか、競技を続けられない」と退社を決断した。練習場

所に適した公園が近くにあり、任があるから、思わず感極まる埼玉和光市を拠点に定めた、他の選手ら計5人で「和光アスリートクラブ」を結成した。

収入を断られた上野さんは、転居費用をやりくりできず、妻と暮らす神奈川県茅ヶ崎市の自宅から電車やバスを乗り継いで約2時間半をかけて練習場に通い、辰巳選手はアパートで女子マネジャーと共同生活。トラックを全面借り切りにできないため、ハードルを一台だけ持ち込んで繰り返し跳んで練習を続けた。

生活費を切り詰めながら、今年6月に長居陸上競技場で開かれた日本選手権に出場。三千メートル障害物では9分57秒02の記録で2位に入り、世界選手権の参加B標準(9分58秒00)を突破した。スタンドには「彼女を授与する」と発表した。世界選手権大阪大会が開幕する25日に学内で式典があり、ディアック会長が記念講演を行う。

「まだ将来がある」と、今大会での結果にこだわらないという上野さん。一方で、今回の成績は、スポンサー探しを続けるクラブの将来も左右する。代表入りで日本陸連から月額20万円の支援を受けられるようになった辰巳選手は「決勝に進んで上野さんに恩返ししたい」と気合を入れる。

国際陸連会長に
名誉博士の称号
大體大授与

大阪体育大学(大阪府熊取町)は23日、「陸上競技の発展に寄与した」として、国際陸上競技連盟(IAAF)のラミン・ディアック会長(74)に、名誉博士の称号を授与すると発表した。